

「今の中日関係にまつわるいくつかの疑問」(第2回)

講演者 薛劍公使参事官

(前号より)

4、中国の「平和発展」は単なるスローガンなのか？

「平和発展」はこの十数年間、中国指導者が国内外の場で繰り返し強調し続けている国家戦略であります。なぜそうしなければならないのかと言うと、中国はアヘン戦争後百年間、欧米列強と日本軍国主義から国土を侵食され、国民は塗炭の苦しみをなめさせられたからです。そこからようやく新中国が成立し、民族の解放と独立を獲得しました。その後、文革など大変な混乱期があり、それが収束して今は改革開放の時代に入っています。中国国民の心の中には、国が安定して、普通に暮らせるようになることは、とても大事なことで、とても尊いことなのだという意識が根付いています。「平和発展」は長い苦難の歴史の中から集約された中国国民の一番大きなコンセンサスです。中国は改革開放以来、他国と戦火を交えることなく、経済的にこれだけ豊かになりました。これこそ中国の「平和発展」を物語っていると思いますし、中国の指導者が「平和発展」を強調しているのも、これが一番の大きな根拠となっているからです。



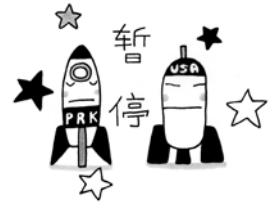
日本留学フェアに参加しました。

5、中国は朝鮮をかばおうとしているのか？

答えとしては、かばうつもりはまったくありません。中国としては、今朝鮮がやっていること、特に核兵器の保有やミサイル発射には絶対反対です。こういう行為は国連決議に違反する不法行為であり、許されません。これは中国の一貫した態度です。一方で中国は日本と違い、朝鮮とは陸続きです。何か混乱があった時には、当然中国が真っ先に影響を受けます。日本では、ミサイルが飛んでくるのではないかとすごい騒ぎで、電車までストップしました。実際、中国は朝鮮から受けている影響は日本よりはるかに大きい。例えば、朝鮮の核実験場と中国国境との距離は100キロしかありませんので、朝鮮が核実験を行えば、小学校の子どもたちは地震がおきた思いグラウンドに飛び出します。中国がどんな思いでいるか、日本の皆さんも想像力を働かせて頂きたいと思います。

しかし、お互い隣国ですから好き嫌いは別にして、もっと冷静な情勢判断に基づいて行動するべきではないでしょうか。一方的に相手を非難しては問題解決にはつながりません。むしろ問題を複雑する可能性もあります。そのことも十分念頭に置きながら、共に協力して、この問題に対処しなければならないと思っています。また朝鮮をめぐる情勢の中で、アジア地域の国々は、それぞれが主体性を持って行動しなければならないと思います。外からこう言われているから、こうすべきだということではなく、アジアの一員としてどうすべきなのか明確にすべきだと思います。

A 先生の新語コーナー



shuāngzàntíng “双暂停”

「双方一時中止」。北朝鮮の核・ミサイル活動と米韓の大規模合同軍事演習の一時中止を指す。中国の王毅外相が今年3月の全人代会議期間中の記者会見で表明したものの、その目的は朝鮮半島情勢を巡る緊迫した局面を打開し、中断している6力国協議を再開することにある。朝鮮半島の核問題に対する中国の立場は一貫しており、それは「三つの堅持」という言葉で表すことができる。三つは半島の非核化実現、半島の平和・安定維持、対話・交渉による問題解決である。(A)

留学生訪ねウルムチ行 学院長 片寄浩紀

農業の近代化に努力

夏休みを利用して、8月11日（金）から18日（金）まで8日間、一人で中国の北京とウルムチに行ってきた。15年前、私はあるウイグル人青年アイニー君の身元引受人となり、日中学院日本語科への留学の世話をした。彼は日中学院卒業後、日本の大学に進み、「農業協同組合」を研究して帰国した。そして新疆ウイグル自治区政府に就職し、新疆の主たる産業である農業の近代化のために、自治区西端のカシュガル（ウルムチから1500キロ西）に単身赴任している。彼はすでに結婚しており、ウルムチには夫人（医者）と一男一女がいる。アイニー君は休暇がとれず、電話で話したただけだが、夫人と子供たちとは親しく交流することが出来た。お土産に持って行った360度ブックの「富士山」がとても喜ばれた。

日中学院で日本語を学習した留学生が、日本の大学で学んだ専門的な知識を活かして祖国で活躍し、幸せな家庭も営んでいる姿を確認することが出来た。日本語科留学生の進路の一例である。日本語科の運営が日中関係の発展のために着実な貢献をしていると実感した。1つの好い実例が近親者の留学への誘因になり、留学生の増大につながることを期待したい。

私はこれまで新疆には2度訪問し、トルファン、カシュガル、石河子などを訪問したが、名勝地「天池」には行ったことがなかった。天池はウルムチの東約100キロ、天山山脈の東端にある。今回は14日（月）にアイニー君の両親に案内してもらった。天池は海拔3000メートルの高さにある湖水で、日本の箱根の芦ノ湖によく似ている。自家用車の乗り入れは麓まで、「天山天池」遊覧エリアの中は専用のバスに乗り換えて観光する。この日ウルムチの天気は晴れ、気温は8度から21度の間という快適さであった。外地からの観光客でかなり賑わっていた。

新疆ウイグル自治区は面積166万平方キロ、人口は2300万人で、60%がウイグル族などの少数民族だが、首府ウルムチ市は人口500万人の大都市で、人口の75%が漢民族。ウルムチに限っていえばウイグル人は少数民族である。どこの社会でも利益矛盾があるが、その根元が民族に由来するのか、宗教に由来するのか、経済システムに由来するのか分析する必要があるだろう。旅行者の目から見たウルムチは平穏であり、12月18日の初の地下鉄開通に向けて工事の最終段階にあった。今後「一帯一路」戦略の実施に伴い、新疆は中央アジアへの玄関としてますます発展すると思われる。（完）



日中学院文化祭のお知らせ 10月21日(土)

今年も日中学院文化祭が開催されます！
本科、日本語科、別科、校友会などによる舞台発表（日中友好会館 地下1階大ホールにて）や、日中学院での模擬店や、展示など行われます。
詳しいプログラムなどはHPやチラシなどでご覧ください。

多くの皆様のご来場お待ちしております



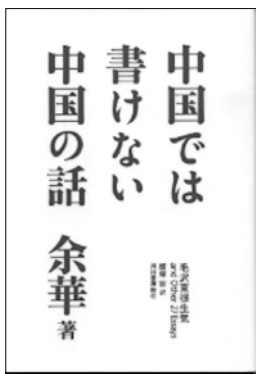
図書室 だより

中国の“かお”

夏らしくない夏が過ぎ、10月になりました。

今月は6月に本校で講演をして頂いた、飯塚容先生の最新作を中心に“余華”の作品を通して、変化著しい中国をご紹介します。

●『中国では書けない中国の話』余華著 飯塚容訳 河出書房新社 2017.8

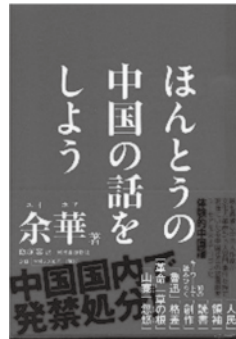


全28篇よりなる余華の最新エッセイ集。内17篇は『ニューヨーク・タイムズ』に、その他は韓国・ヨーロッパの新聞や雑誌に発表されたものである。

北京暮らしの長い筆者は香港に来て、新鮮な空気に慣れず頭痛を訴える。中央銀行が貨幣の超過発行をしてもインフレにならないのは「汚職官僚」が横領した金を筆筒預金し市中に出さないからという、文学者のユニークな見解。誰もが貧しく、階級矛盾や階級闘争があり得なかった時、「階級闘争を忘れるな!」と日々叫んだが、貧富の格差と汚職の横行を前に、もはや「階級闘争を忘れるな」は忘れられた。「反腐敗」の過程で登場した新しい腐敗産業等々、中国の社会現象や矛盾を指摘する。これも中国の一側面、現実だと思うが、なんだか可笑しくもある。第27章は他の章と趣が異なり、心和む作品である。全編を読んでみて、改めて「中国はすごい」と思う。この作品は文字通り、中国では書けない内容の話である。

●『ほんとうの中国の話をしよう』余華著 飯塚容訳 河出書房新社 2012.10

国外の講演会で述べられたことを纏めた10篇よりなるエッセイ集。中国では未だに発禁本として



出版が許可されていない。

余華の作品には、これらのエッセイ二冊に加え、『活きる』・『死者たちの七日間』・『兄弟上・下』等多数の小説がある。余華の物を書く根底には・・私は中国の痛みを書くと同時に、自分の痛み

も書いた。中国の痛みは、私個人の痛みでもあるからだ。・・(「本書あとがき」より)があり、それが彼に影のように寄り添っているのだという。

余華の中国を見る目は冷静であり、愛情にあふれている。今月は一作家の視点を通した中国に触れてみては如何だろうか。

●『CCTV快乐中国-学汉语 北京篇』

《快乐中国-学汉语》栏目组编 北京语言大学出版社 2007 (DVD付き)

楽しみながら中国語を学びたい方にお勧めしたい一冊。このシリーズは他に、景德鎮編・温州編・廬山編・杭州編が配架されている。DVDが付いており、観光しながら、中国語が学べる。テキスト形式だが、旅行も十分に楽しむことが出来る。

〈今月の寄贈図書〉

下記の方々より寄贈がありました。ありがとうございました。

●匿名様より

《名偵探柯南》全六巻 (DVD)

『快乐中国-学汉语・北京篇』他4冊

●神 惇子様 (共著者) より

『興隆の旅』

●飯塚容様 (訳者) より

『中国では書けない中国の話』

●劉笑梅様 (訳者、本校講師) より

『第101位魔女继续人』(魔仙花园的故事系列) 他4冊



10月の日中学院

星期日	星期一	星期二	星期三	星期四	星期五	星期六	
1	2 ●本科18年度 推薦入試受付 開始 ●日本語科10月 生1期入学式	3	4	5	6 ●別科公開 18:45から (入門・基礎)	7 ●別科267期 授業開始	
8	9 ●祝日	10 ●別科休み	11 ●別科休み	12	13	14	
15	16 ●中国語検定 受付締切	17	18	19	20 ●文化祭 リハーサル	21 ●文化祭	
22	23	24 ●本科・日本語科 文化祭代休	25	26	27	28	
29	30	31					
●11月の日中学院 ・2日…本科 推薦入試受付締切 ・5日…本科推薦入試		・6日…日本語科定期試験(～10日) ・7日…本科推薦入試合格発表 ・8日…本科1次募集開始 ・11日…本科生のための公開講座(9:30～)		・25日…瞳みのる先生講演会(13:00～) ・26日…中国語検定試験			

○特別講座

★『中国語わかる文法』を読む
開講日：10月19日(木)から全5回
18:45～20:45

担当：栗田厚司 受講料：18,500円

文法の説明だけでなく、内容に合わせた中国語の練習問題なども解いていく中で、今の、またこれからの中国語の学習に役立つ講座です。

★口と耳のエクササイズ
開講日：11月10日(金)から全5回
18:45～20:45

担当：中村予至子 受講料：18,500円

「中国語がスムーズに口から出でくるとなりたい」「リスニング力を高めたい」と思っている方を対象に、通訳メソッドを応用した練習を行います。



○特別講座 12月3日(日)

中国語を初めて学習される方から、すでに勉強されている方向けの講座など、開講します。

詳しいカリキュラムなどは、詳細が決まり次第お知らせします。学院HP、チラシなどをご覧ください。

講演会のお知らせ

グループサウンズの代表的バンド、ザ・タイガースのドラマーとして活躍し、ザ・タイガース解散以後は慶應義塾高等学校教諭として長きにわたり中国語・漢文を担当されていた瞳みのる先生にお越しいただきます。

詩文の脚韻、対句などの修辭的な表現など韻律の美しさ、音楽的な魅力を持つ中国語。古典の詩文から現代チャイナポップスにいたるまで、その魅力についてお話しいたします。

■日 時：2017年11月25日(土)
13:00～15:00(12:40受付開始)

■講 師：瞳みのる先生

■会 場：日中学院内教室

■参加費：500円(当日お支払い下さい)

■定 員：60名(内ファンクラブの方は20名限定)

参加をご希望の方は、日中学院事務局までお申し込み下さい。皆様のお申し込みをお待ちしております。